

県立高校におけるICT機器の整備状況

●「ICTを活用した新たな学び推進モデル事業」について

○目的

- ・「向かっていく学力」の育成に資する協働型・双方向型の授業を実施するため必要となるプロジェクタや実物投影装置等のICT環境を事業実施校に整備する。
- ・ICT機器を利用した授業の質の向上に向けた研修・取組を行い、ICT機器の最適な導入方法及び運用・活用におけるノウハウを蓄積する。

○実施校

- ・H26年度設置 松江北、飯南、益田翔陽
- ・H27年度設置 浜田
- ・整備内容

- ①プロジェクタ、実物投影装置、スクリーン
(ホームルーム教室は全教室、特別教室には学校規模により数台整備)
- ②3台のタブレット端末

県立高校におけるICT機器の活用状況

●実物投影装置の活用

- ・教科書の本文、図、写真を拡大投影
- ・実習や実験の様子を拡大投影
- ・生徒のノートの投影

●教科用パソコンの活用

- ・英語等でのフラッシュ教材の提示
- ・数学におけるグラフ・図形の提示

●タブレット端末の活用

- ・体育で運動の様子を動画撮影してその場で共有
- ・理科の実験を動画で提示
- ・グループ協議でまとめたものを撮影、提示して共有
- ・調べ学習において生徒が活用

教員のICT活用指導力の向上について

●モデル事業実践校における取組

- ・ICT地域マネージャー(大学教授)による教員研修
- ・教育センターによる出前講座を活用した教員研修
- ・実践校間の連携による授業公開
- ・校内での授業公開、情報交換

●モデル事業実践校における取組の成果

○ICT機器の整備により教員のICT利用率が向上し、生徒の授業内容の理解促進につながっている。

- ・授業中のICTの利用率の向上

(導入初期)70% (1年後)78%

- ・「ICT機器を活用することにより授業が分かりやすくなった」と回答した生徒割合
(導入初期)64% (1年後)79%

○ICT機器の導入により、1年目は写真の投影や動画の再生が中心であったが、2年目からは各教科において生徒が活動する場面が設定されるようになった。